

コンテナ苗木による低密度植栽研修会を開催

1 はじめに

持続的な森林経営の推進のため、森林施業の低コスト化が喫緊の課題となっています。なかでも、森林施業に要する経費の大半を占める植栽経費のコスト削減が重要であり、① 機械を活用した地拵から植栽までの一貫作業、② 低密度植栽、③ コンテナ苗木の活用などの取組を組み合わせながら、低コストな造林を実践していくことが必要となっています。

2 研修会の開催

二戸普及区では、コンテナ苗木を活用した低密度造林を促進するため、平成27年度から地域経営推進費を活用した研修会など普及啓発に取り組んでいます。

平成27年に引き続き開催した研修会は、平成28年10月19日に造林事業体等30名の参加の下、軽米町で開催しました。

室内研修では、岩手県林業技術センター研究員や県森林整備課種苗担当者からの講義により、コンテナ苗木と裸苗(従来苗)との生育調査結果やコンテナ苗木を巡る情勢等を説明いただきました。

現地研修では、面積約0.4haに植栽本数1,100本/haの低密度植栽を行う現地において、実際に参加者が植栽を体験しました。植栽が容易なため、参加者全員により用意した500本の苗木の植付を30分ほどで完了しました。



【室内研修の様子】



【現地研修の様子】

3 現地研修の概要

植栽に使用した植栽器具は専用のディンプルのほか、当普及区で独自に改良した器具(150cc用。下図)も使用しました。ディンプルでは先端部を利用し、穴をこじ開ける仕組みですが、笹地等では笹が植栽穴にかぶさる等のケースがあり、今回は、笹の根茎を切断できるよう先端部を鋭利な構造に改善しました。先端部が土詰まりとなるなどが今後の改善点となります。

また、苗木運搬かごは、盛岡市の(有)川又林業が独自に開発したものを借用しました。根鉢が崩れ易く、小運搬に課題があったコンテナ苗木を大量に安全に使用できる製品であることを確認できました。

参加者には初めてコンテナ苗木を植栽する方が多数おり、迅速に植栽することができたとの感想があった一方、「裸苗と比較し、苗木がコンパクトで植栽後の生長は大丈夫か」、「深穴の底面と苗木の培地に空間が生じた際に枯死の可能性はあるのか」などの質問がありました。



【改良型植栽器具(右端)】



【苗木運搬かご】

4 おわりに

県山林種苗協同組合では、平成28年中の完成を目指し、コンテナ苗木生産施設を二戸市内に整備中であり、次年度以降からはコンテナ苗木を大量に生産できる体制となります。

当普及区では引き続き、コンテナ苗木のメリットなど普及啓発に努めていきます。